

MTCA サポーター通信

発行
MTCAサポーターの会
盛岡市中ノ橋通1-1-10
（財）盛岡観光コンベンション協会内
TEL 019-606-6688
FAX 019-653-4417
2006年12月発行

No. 39

晩秋の津軽路を行く

視察研修旅行報告

副代表 佐藤ユリ子

当会恒例の文化観光施設見学会、今年度は開館して間もない青森県立美術館など、平成十三年度の田沢湖芸術村及び劇団ぶどう座公演見学に続いて二度目の県外文化観光施設見学会となりました。



紅葉真っ盛りの奥入瀬渓流で記念写真



青森県立美術館で

奥入瀬の紅葉探訪でした。おでつて前を九時に出発、マリオス前からの乗車の方と事務局の藤澤さんを含め総勢二十五名を乗せたバスはいざ青森へと出発です。

途中、バスガイドさんと何やら話し込んでいた藤澤さんが私の所に予定変更の相談にやってきました。ガイドさんによると、奥入瀬は今の時期は三時過ぎには薄暗くなってしまう景色が良く見えないので、午後予定の十和田奥入瀬を午前に変更してはどうかとの事。早速皆さんに諮ったところ、「賛成!!!」の拍手をいただき、バスは一路十和田湖方面へと向かったのであります。

少し雨模様の十和田湖でしたがそこを過ぎて奥入瀬に差し掛かった頃には晴れ間も広がり、奥入瀬渓流の散策と紅葉を存分に楽しむ事が出来ました。

続いて、昼食会場となったねぶたの里では、余り有り難くないカメム

平成十八年度の研修旅行が十月二十八日(土)実施されました。目的は青森県立美術館、三内丸山遺跡、ねぶたの里、それに十和田



落ち葉を踏みしめながら散策

シ軍団の歓迎を受けましたが、おいしい昼食と、本番のねぶた祭りで見物。そして本日の目玉である青森県立美術館へと直行しました。

残念ながら美術館に隣接する三内丸山遺跡の見学は時間の都合上割愛となりましたが、県立美術館では一時間ほどの滞在時間の中、学芸員のご説明を聞きながら各自思い思いに館内を見学することが出来ました。建物の概観と同じく展示品も全体にモダンな印象を受けましたが、見る人の感性でさまざまな捉え方があるうかと思われました。

皆さんと楽しく過ごした研修旅行も予定より少し早めの七時前に無事盛岡に帰着。参加されたサポーターの皆さん、そして事務局の皆さん本当にありがとうございました。次回研修旅行を楽しみに又がんばって参りましょう。

MTCA サポーターの会とは

MTCAサポーター...は財団法人盛岡観光コンベンション協会(略称MTCA)コンベンション部に登録された市民ボランティアで、盛岡地域で開催される学会や全国大会、国際会議等、MTCAが誘致・支援する各種コンベンションに主催者スタッフの一員として派遣され、受付やクローク、接待、観光案内などの業務に従事しているコンベンション専門のボランティアです。

コンベンションボランティア...は、平成6年8月、(当時の)盛岡コンベンションビューローが全国で初めて開発・システム化したコンベンション専門のボランティア派遣制度で、

盛岡では年間に50以上の大会へ延べ500人前後のサポーターが派遣されています。今では盛岡に倣い、全国各地に同様のボランティア制度が生まれています。

MTCAサポーターの会...はMTCAに登録されたサポーターが、その資質の向上とサポーター間の連携や親交などを目的に平成6年11月に結成されました。接客対応や盛岡の観光、歴史、物産についての勉強会、文化観光施設の見学会、コンベンションに関係の深い英会話講座の開催や新年会などの親交事業を、会員の負担金やMTCAからの助成金などで自主的に運営されています。現在62名の会員がおります。

全日本美容技術選手権大会



一般受付には長蛇の列

今年度最大規模のコンベンションの一つである「第三十四回全日本美容技術選手権大会」が十月十七日(日)滝沢村岩手産業文化センターにおいて開催されました。同大会には、選手団とそのモデルを始め、同業者や業界関係者など全国各県から四千五百名余の参加がありました。

本県で初めて開催されたこの大会に盛岡観光コンベンション協会では、歓迎塔看板や歓迎ステッカーの配布、観光資料の提供などのほか、一日では今年度最高となるM.T.C.A.サポーター四十二名を派遣、盛岡駅での案内、会場受付、会場整理誘導など、大会の成功に向けてお手伝いをいたしました。

サポーターアンケート

Q この大会を側面から見てどう感じましたか

●華やかに見える業界も技術の研鑽を真剣にやっている人が多いことに、また若い方が多いことに感心した

●県美容関係者のきめ細かい準備の甲斐あって大成功だったように見受けられました

●流れるには順調に進んで良かった

●美容関係の大会とあって服装、髪の色、形、なんでも有りで緑色の髪など巷ではみられないファッション見ることが出来ました

●さすがにしゃれた方が多いですね

Q 現場で仕事に携わったの意見、感想など

●団体受付と一般受付の連絡をもっと密にすればよいと思ったことがあります

●受付担当の人たちの明るい雰囲気と声はとてよよいと思いました。ただヒマになったときの私語はちょっと

●他県からいらしたグループが、入場券を(先に入っている)選手の方が持っているので入場できず、係りが確認のため走り回る場面もありましたが、親切な対応で何のトラブルもなく解決していました

●久慈地区の美容師さん達と一緒にしましたが、てきぱきと仕事をこな



経験の積み重ねが信頼の礎です

ておられ、又、愉しく過ごさせていただきました

●当日券を求める人、A席とB席を取り替えてほしい人がいたものの、担当の美容師さんがすぐに動いて下さったのでお客様も快くお待ち頂き混乱なくて良かった。とても感じのいい方々で楽しくお手伝いできました

●サポーターはみな真面目に取り組んでいたと思います

●B席の場所、お弁当引き換えの場所が知らされていなかったののお客様に訊かれても即答できなかった。事前にコピーを二、三枚でも用意して見せて貰いたい

●集合場所が変更になっていて探してしまいました

●団体受付が年配の方が大勢来た場合に長く待たされているのが気がかかった

●圧倒的に女性が多い大会なので、トイレの利用(混雑)については考える必要があると思った

大会主催者インタビュー

業界動向は

岩手県の組合店舗数は県内で千三百二十店舗です。最近は特に若い人の独立開業が多いのですが、なかなか組合には加入してくれないのが課題ですね。昔は、料金やサービス、休日など組合員間で協定がありましたが今は自由です。ただ、組合の事業、例えば技術セミナーや経営講習会なども過去の経緯からどうしても月曜日に実施することになり制約さ

「全国からの参加者が一時に集中する受付には経験のない若い人の寄せ集めだけでは不安でした」

れることなども原因因でしょうか。

は 本大会の岩手県での開催

初めてです。私は以前から、県内の美容業界の技術の向上や全国レベルでの新技術の修得、審査員や業界関係者との交流、組合の力を高めるためにも是非岩手県で開催したいと言いつつ、費用負担なども大きくなってなかなか実現しなかった。

第34回全日本美容技術選手権大会

岩手県美容業生活衛生同業組合

理事長 稲川 善昭さん (山田町)

(平成11年から第5代目の理事長に就任)



そこで理事長に就任してから、岩手県ではスリムながらも充実した大会にしたい、との方針を掲げ思い切つて理事会に提案しました。それでも賛否両論あり一度目では決定出来ませんでした。二ヵ月後再提案し(誘致することを)決めることが出来ました。

決定にいたるまでは

開催地の決定については全国から希望を取っており、平成十八年度は群馬県、石川県も立候補していましたが、全国役員の事前調査などの結果、メイン会場、交通アクセス、宿泊収容能力などの条件を総合的に勘案して岩手県の優位性が認められたようです。

MTC Aとの係りは

コンベンション組織の支援については前年度、前々年度開催県からも聞いて知っておりました。それで岩手開催が決まっつてすぐに(当時の)コンベンションビューロー事務局を訪れ相談させて頂きました。

本番では、盛岡駅前の歓迎塔看板や、商店街・駅ビルなどで歓迎ステッカーを眼にした他県の役員の人たちが「岩手ではこんなことまでやってくれるのか」とびっくりしてましたね。因みに昨年は京都で開かれたのですが、タクシートの運転手さんに訊いてもそんな大会が開かれていることすら知らなかった。

サポーターの配置については

主に受付と昼食の弁当配布のほか、会場整理や盛岡駅での案内も担当して頂きました。

実は、特に受付と昼食配布については、役員の間では「大学生が各お店の若い女性の方がいいのではなにか」という意見もあつたのですが、私は最初からサポーターの方々にお願ひしようと思つておりました。

何故かといいますと全国からの参加者がその大会で最初に触れることになる一般受付は、一方では短時間に最も人が集中するところでもありトラブルのおきやすいところだからです。経験もない寄せ集めの若い人だけでは不安でした。

また、何年前か前にある県で開催されたとき、弁当の配布に手違いがあり、たまたま行き渡らなかつた人が物凄く怒つていた現場を目の当たりにしたことがあるのです。その方の憤りは大会の最後まで続いていました。

それで、一般受付と五千食にもなる参加者への弁当の配布に関しては絶対にミスがあつてはいけない、ある程度人生経験豊富でちよつとしたトランプにも機転を利かせられるような余裕を持った年配の方を配置したい、というこだわりを持っていたのです。

全国からの参加者がその大会のイメージを最初に感じるところは、軽い気持ちで誰でも簡単に出来ることではない、と思ひます。

サポーターの働きは如何でしたか

実際にMTC Aサポーターの人は、スタッフジャンパーも色鮮やかで目に付き易いし、皆さん気の利く方々でてきばきと良く動かれまして。県内の支部長さん方に聞いても「申し分ない」、慣れているせいも余裕が感じられた」などの意見が聞かれたようにとても評判が良かったですね。

大会を実施しての成果は

組合としての公式な反省会は決算処理終了後の十二月以降になります。技術面では大きな成果が挙げられました。大会参加の選手は全国から二百五十名、そのうち本県代表は二十四名でしたが、優勝者を始め七種目においてなんと十名が入賞しました。北海道・東北ブロックの入賞者は全体で十三名でしたから、本県美容業界の技術の向上には大きく役立ったものと思ひます。

サポーター制度についてどう思ひましたか

すごくいい制度ですね。実は私は山田町の商工会副会長もやつていますが、地元で開催されるイベントなどに活用できないか、と思つて居るのです。地域おこしの事業は、主催者である役員や職員だけでは足りないし事務局だけが一生懸命やつても盛り上がりません。ボランティアなど地元の人たちと一緒に出来なければ成功とはいえない。なんとかこのシステムを研究し地元にも取り入れ活かしたいと考えています。

(十一月六日(月)組合事務所にて取材)

役員会

はじめて宴会のない 新年会です

今年度第三回目の役員会が下村代表以下七名の出席により十一月十五日(水)午後六時三十分よりプラザおでつて会議室で開催されました。議題は新年会&研修会の実施について。今年の予算執行状況なども確認しながら先ずは意見交換。サポーター業務に関する会員のパネルディスカッションをやつてはどうか、昨年のプリマベール藤田敦子さんの講演が良かったのでパートIIを聴きた

い、などの案も出ましたが、その中で、実際に現場において接客・応対を実践している人の話を聞いてはどうか、との提案があり、つなぎ温泉「四季亭」の女将さん、林晶子さんにお願ひすることとなりました。続いての課題は新年会をどうするかの話。過去十一回の開催会場なども振り返りながら検討を進めました。一方では、役員の間でも四季亭に行ったことがない、ぜひ一度行っ

てみたい、という人も多く、せっかく四季亭の女将さんの話を聴くので会場も四季亭にしたらどうか、但し料金的には(財政的にも)宿泊は無理があるが、同旅館の日帰りプラン(昼食、入浴、休憩など)なら可能というところで、今年度は初めて宴会抜きの新年会とすることが決まりました。その他、今年度の予算執行について事務局より報告がありました。今年度はサポーター派遣の大きな大会が例年よりやや少なく、負担金収入については予算額を十万円前後下回る見込みのところから、今後の支出についても儉約しながら進めることとなりました。



数寄屋造りのたたずまい。季を彩る純和風旅館 四季亭

'07 新年会&研修会のご案内

開催期日 平成19年1月27日 11時~15時
 開催場所 つなぎ温泉「四季亭」送迎バスあります。
 研修内容 講演「だから宿屋はやめられない」
 四季亭の接客接遇の実践のほか、これまでのトラブルや失敗談の数々についての対処法など
 講師 四季亭女将 林 晶子(はやし あきこ)さん
 開催期日 4,000円(昼食費、入浴料、休憩料)
 今年度は宴会は無しです。例年とは一味も二味も違う新年会をどうぞお楽しみください。

各地の主なご当地検定

- 札幌シティガイド検定(札幌市)
- 道産子検定(北海道)
- 北海道観光マスター検定(北海道)
- 北海道フードマイスター認定(北海道)
- 秋田ふるさと検定(秋田県)
- ナマハゲ伝導士認定(秋田県鹿角市)
- 会津ものしり検定(福島県会津若松市)
- 盛岡もの識り検定(岩手県盛岡市)
- 米沢観光文化検定(山形県米沢市)
- 東京シティガイド検定(東京都)
- 江戸文化歴史検定(東京都)
- 信州観光文化検定試験(長野県)
- 京都・観光文化検定(京都市)
- 長岡京市観光歴史検定(京都府長岡京市)
- 境港妖怪検定(鳥取県境港市)
- 九州観光マスター検定試験(九州)
- 博多っ子検定(福岡市)
- 長崎歴史文化観光検定(長崎市)
- 佐世保検定(長崎県佐世保市)
- 熊本観光文化検定(熊本県)

盛岡もの識り検定試験

今急激な勢いで全国的な拡がりをを見せている「ご当地検定」。平成十五年九月に行われた「博多っ子検定」がその走りですが、一昨年、京都商工会議所が「京都・観光文化検定試験」を実施した際一万人近い受験者を集めて話題になったことをきっかけに全国の商工会議所等に飛び火。今年度は六十ヶ所以上の地域で行われたようです。

盛岡でも、盛岡商工会議所が主催(MTCA後援)した「盛岡もの識り検定試験」が十二月二日(土)実施されました。もっと地元のことを知りたい、地域の熟知度を測りたい、などの趣味的関心から、直接・間接的に仕事に関係するからと社長以下会社を上げて取り組んだ企業もありその受験者総数は二百二十名余。公務員や会社員、学生、観光関連のホテール、飲食業従業員、タクシー運転手さん、一般市民など本当に多種多様。その前段に行われた受験対策講座「もりけんばっちり対策講座」にも百八十人余の受講者がありました。

編○集○後○記

二、三ページ「全日本美容技術選手権大会」における稲川理事長さんの取材。何十年に一度しか地元には来ないであろうその大会に馳せる主催者としての思い。責任の大きさ、隔々までの心配りやサポーター支援に対する期待感、など、一言一言を身の引き締まる思いで聴かせていただきました。

その一方で、当日出られたサポーターのアンケートを見ると、「(業界の)美容師さんたちと一緒に愉しく仕事が出来た」「明るい雰囲気を感じの良い人たちだった」などの声も聴かれます。自分たちだけではなく、関係業界の方々と手を携えながら進める「ことこそ大きな意義があるのではないのでしょうか。」